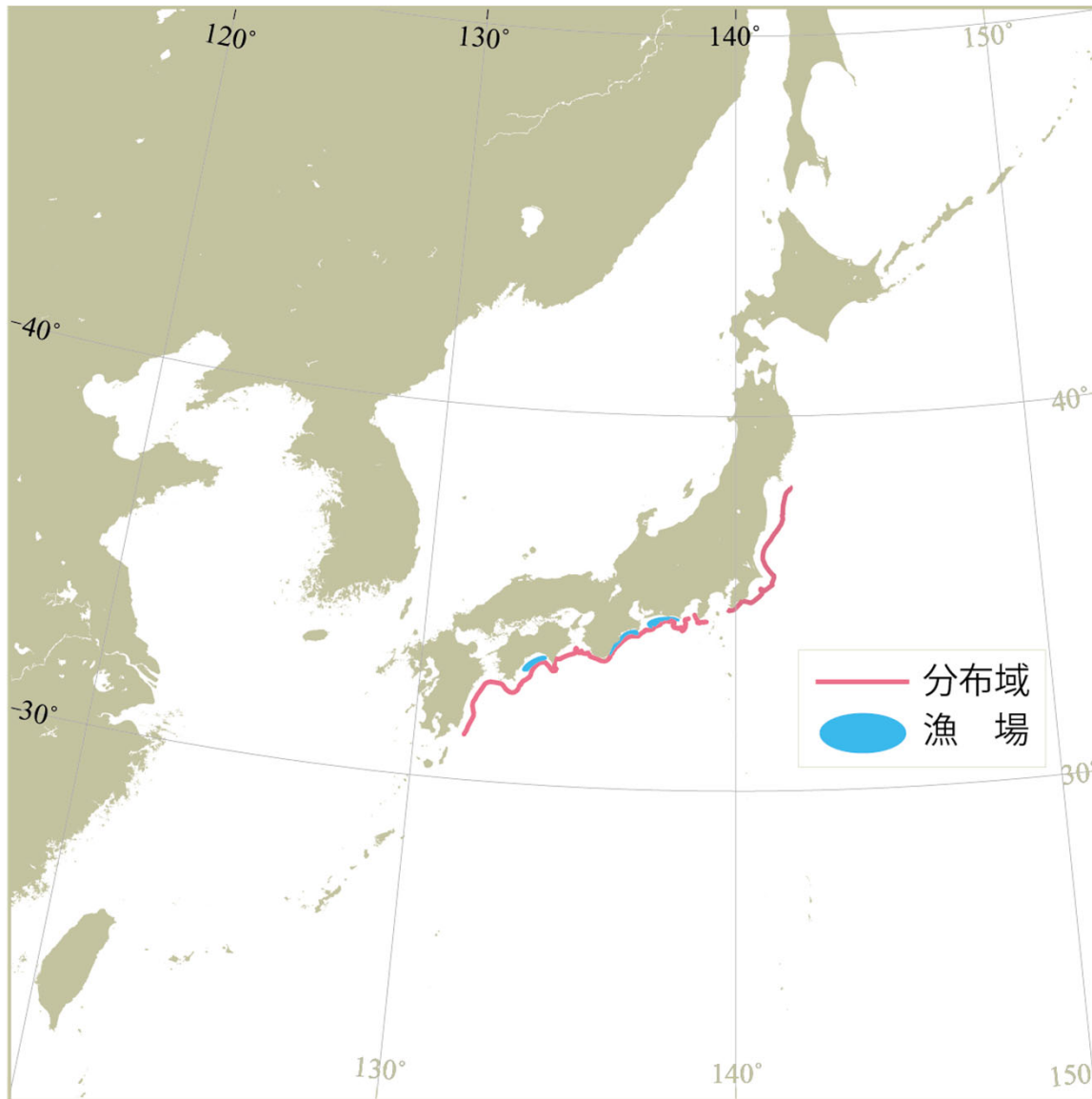




ニギス太平洋系群 令和6年度資源評価結果

生物学的特性

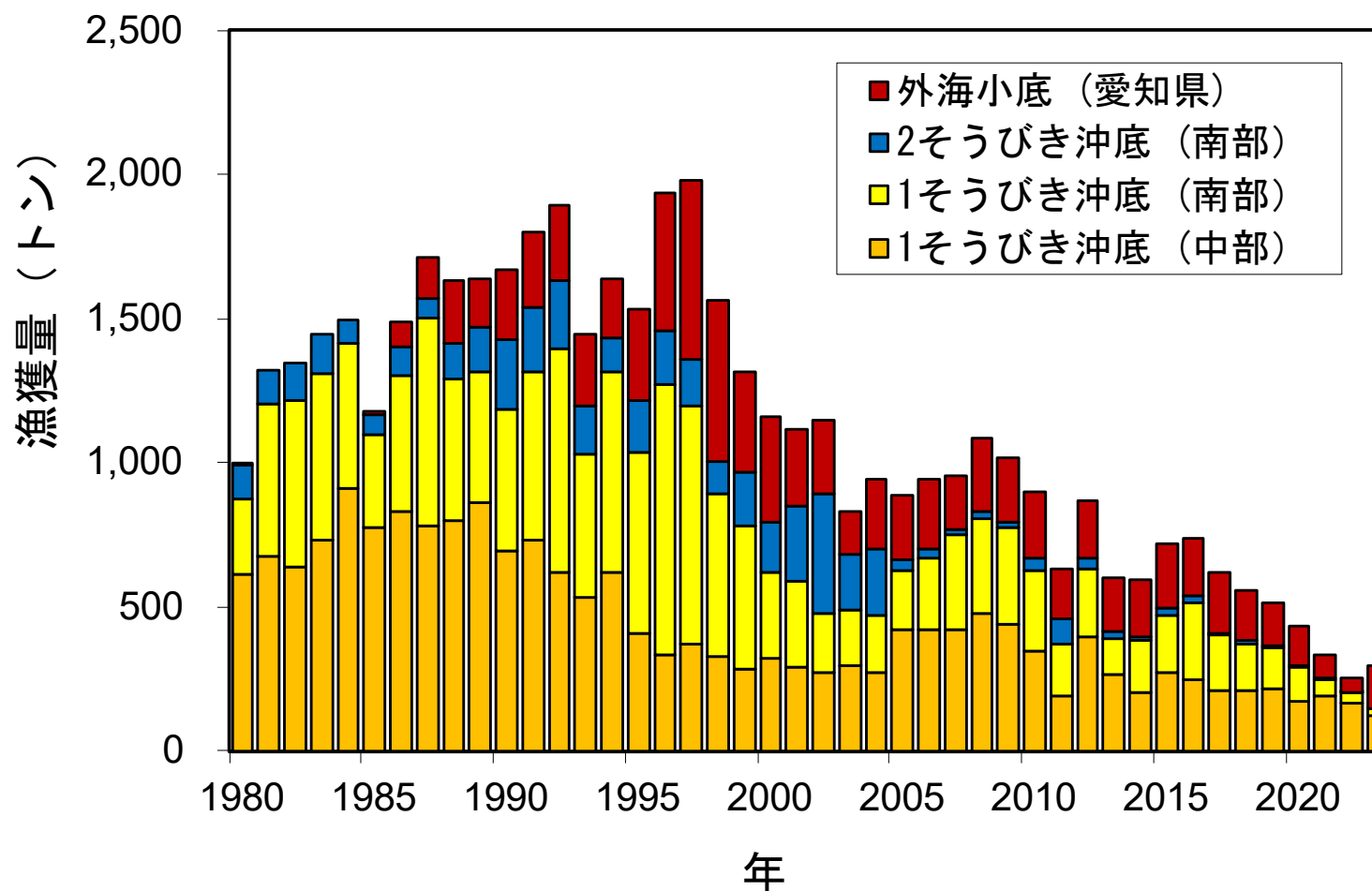


生物学的特性

- 寿命：3歳
- 成熟開始年齢：2歳
(100%)
- 産卵期・産卵場：
9月を除くほぼ周年、盛期は
2～3月で11～12月にも小さな
ピークが出現、
水深200～300mの海底付近
- 食性：
幼稚魚期は主にカイアシ類、
成長に伴い主にオキアミ類
- 捕食者：
中・大型の底魚類

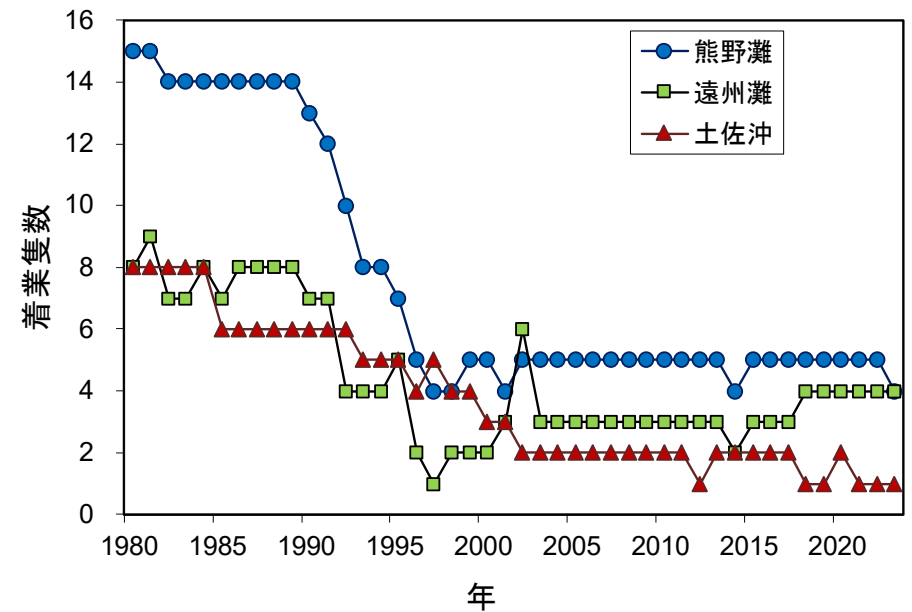
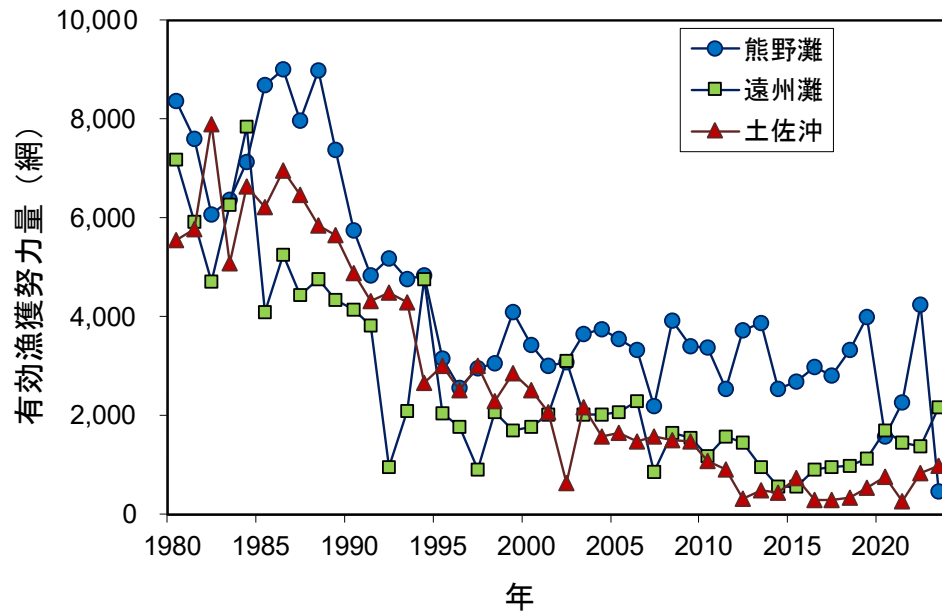
- 本系群の主要な漁場は太平洋の中部海域と南部海域

漁獲の動向①



- 2023年の漁獲量：299トン（2022年：252トン）
- 主な漁業種類は1そうびき沖合底びき網漁業（沖底）と愛知県外海小型底びき網漁業（小底）
- 漁獲量は1990年代後半から減少傾向が続いている

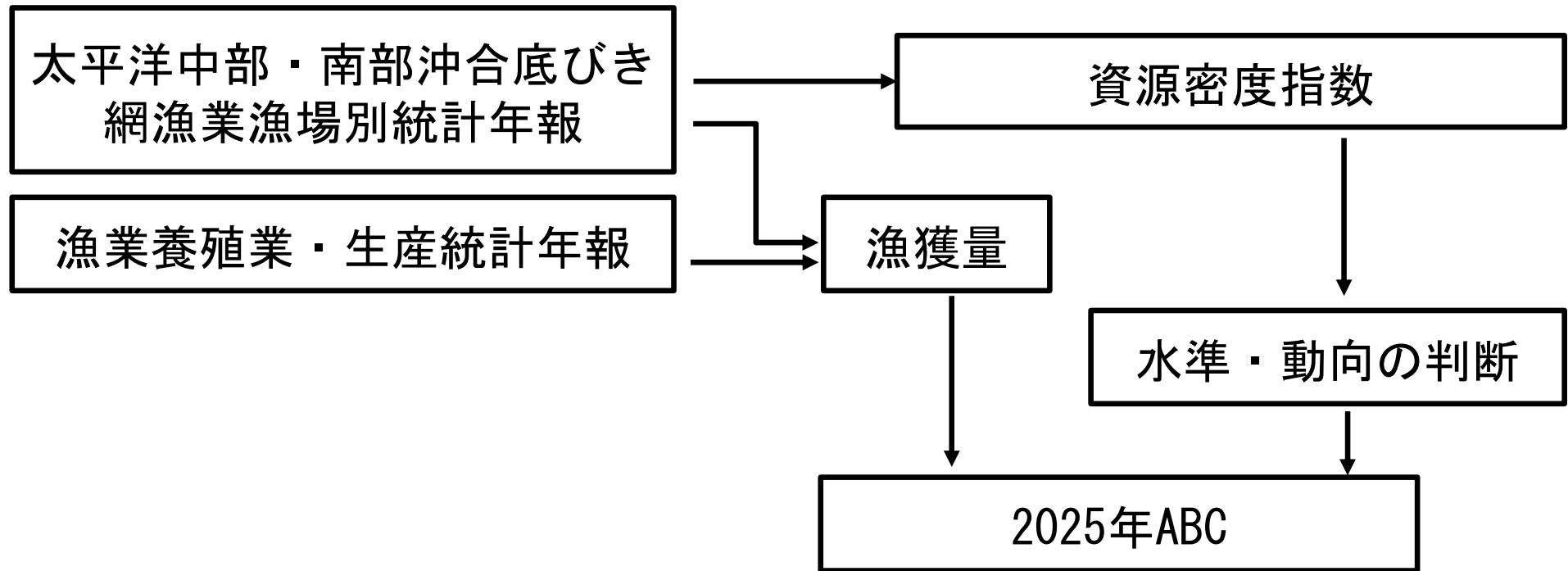
漁獲の動向②



- 1そうびき沖底の代表的な小海区における有効漁獲努力量は1980年代は高かったが、その後は横ばい～減少傾向で推移
- 着業隻数も1990年代ごろに大きく減少し、その後は横ばい

※有効漁獲努力量：有漁漁区数と漁獲量の積を各漁区の1網当たり漁獲量の総和で割った値

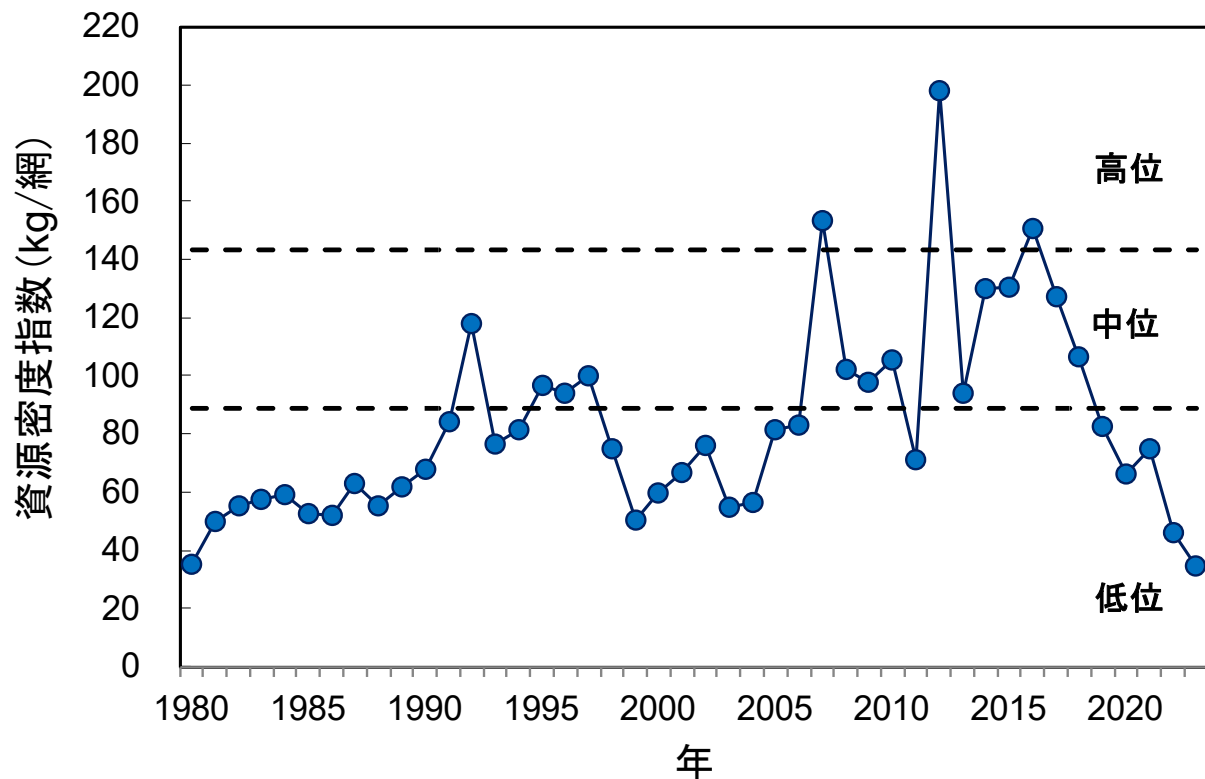
資源評価の流れ



※ 資源密度指数：漁獲量を有効漁獲努力量で割った値
熊野灘、遠州灘、土佐沖の1そうびき沖底の値を系群全体の資源量の指標値とした

※ ABCは漁業法改正前の考え方に基づく基本規則を適用した値

資源の動向



※水準区分 低位／中位：資源密度指数89、中位／高位：資源密度指数143
(熊野灘、遠州灘、土佐沖における1980年以降の資源密度指数の最大値と最小値の間を3等分して算出)

- 熊野灘、遠州灘、土佐沖の1そうびき沖底の資源密度指数で水準・動向を判断
- 資源水準：2023年の資源密度指数は34であり「低位」
- 資源動向：直近5年間（2019～2023年）の資源密度指数の推移から「減少」

資源評価のまとめ

- 資源水準は「低位」、動向は「減少」
- 熊野灘、遠州灘、土佐沖の1そうびき沖底の資源密度指数に基づいて資源状態を判断した

2025年ABC

管理基準	Target/Limit	2025年ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F値(現状のF値からの 増減%)
0.7・Cave3-yr・ 0.607	Target	100	—	—
	Limit	126	—	—

- 漁業法改正前の考え方に基づく基本規則2-1)により、
 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算
- δ_1 : 0.7 (低位水準、資源動向が減少である場合の標準値)
- Ct : Cave3-yr (直近3年間(2021~2023年)の平均漁獲量)
- γ_1 : 0.607 (資源密度指数の直近3年間の傾きと平均値から求まる係数)